

令和5年度 神奈川県立相模原中央支援学校 学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立相模原中央支援学校 第1回学校運営協議会		
開催日時	令和5年6月9日(金) 14:00~16:00		
開催場所	相模原中央支援学校 地域生活支援室		
出席者	学校運営協議会委員 7名(本校校長を含む) (3名欠席)		
次回開催予定日	令和5年9月29日(金)		
問合せ先	相模原中央支援学校 副校長 窪田 譲 電話 (042)768-8510		
掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議・会議経過			
<p>1 開会</p> <p>2 学校運営協議会</p> <p>(1) 学校長あいさつ</p> <p>(2) 委員紹介、委嘱状の交付</p> <p>(3) 会長、副会長選任</p> <p>(4) 学校運営協議会、本校の各部会について</p> <p>3 学校評価部会</p> <p>(1) 昨年度評価結果について</p> <p>(2) 令和5年度 学校評価報告書(目標設定)について、各グループよりスライドを使用して、目標および具体的な方策、評価の観点について説明。</p> <p>①教育課程学習指導(研究研修グループGL)</p> <p>一人一回の授業公開、チームによる授業検討会、研修・講演会等を実施し、評価規準に基づいた子どもの姿から目標を明確にした授業づくりにつなげる。視機能に関する研修、ICF、学習会(さがちゅうゼミ)の他、オンライン授業、視覚情報を聴覚情報に変換、視線入力装置等のICT活用等、教員研修による情報共有を実践する。</p> <p>②保護者への情報発信(教務グループGL)</p> <p>授業参観日について、各学年で年に2回授業参観日を設定して行う。各エリア1学年ずつ。授業計画(指導略案)を配付し内容を明らかにする。参観アンケートを配付し保護者の意見を今後の学習活動に役立てる。</p> <p>③地域等との協働(支援連携グループGL)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流デイ、学校間交流として共和小学校4年生と本校小学部の児童との交流、保育園と幼稚部児童との交流等の実施予定あり。 センター的機能については、電話やオンラインなど相談方法が多様化している。相模原市とのインクルーシブ教育の推進、地域の小中学校へ巡回相談、相談事業のPR活動等、充実を図っていく。 <p>④防災(総務グループGL)</p> <ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルを作成中。事前、発生時、事後の危機管理について、発生時の緊急対応、熱中症、頭部打撲、不審者侵入への対応等、安全対策を確認している。 <p>⑤事故不祥事防止への取組み(副校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権意識の向上、指導力(授業力)の向上、同僚性の向上、早期発見、早期対応、信頼の回復に取り組む。 今年度の取組みとして、授業参観日、日常の授業参観の再開、研修会、保護者への周知、保護者からの意見収集、朝の打合せでの意識付け、不祥事防止会議の活用を実施していく。 			

4 切れ目ない支援部会

(1) 自己紹介

(2) 今年度の取組の紹介

- ・昨年までパラスポーツ推進プロジェクトチームが中心となって、卒業後の生活を見据え、障がい者スポーツの在り方について協議し学校活動の改善を図ってきた。今年度は、支援連携グループの余暇支援係の中に位置づけて活動の定着を図っていく。具体的には①ポッチャ甲子園②パラスポーツやってみよう週間③パラスポーツ体験講座④ぎんがポッチャ体験会⑤ポッチャアジサイ杯⑥第2回ぎんがポッチャ大会を行う。その他、企業の協力を得て、サッカー観戦の機会をいただき感謝している。
- ・昨年の9月より、外部講師によるバスケットボール活動支援及び休日の活動を試行してきた。この取組は、神奈川県スポーツ課の委託事業(特別支援学校を活用したパラスポーツ推進事業)である。休日実施をする際は、本校卒業生も対象とするなど、在校生以外の方も参加できる活動とすることを目指している。スポーツ課の委託業者は、相模原市内の総合型地域スポーツクラブである。今年度は、平日に8回、休日に5回開催することを目標とし、在校生および、卒業生へ参加を呼び掛けてく。

(3) 意見交換、質疑応答

①質問

外部講師導入について、種目がバスケットボールになっているのは何故か？障がい者向けのスポーツ教室か？タイトルは決まっていないのか？

→所定の手順に従い数種複数のスポーツ団体と交渉したが、障がい者との関わりや報酬面の条件等により最終的に手を挙げてくださった団体がバスケットボールチームだった。

→この事業の趣旨は、特別支援学校を会場として、障がい者向けのスポーツ活動を行うことである。在籍校、在籍していた馴染みのある学校で実施することに意義がある。

→タイトルは「バスケットボール同好会」という名称となっている。

→県の予算がつかなくなると消滅してしまうことが課題である。

②意見

・昨年度からの継続事業だが、プロジェクトチームが牽引してきた功績が大きい。プロジェクトチームがなくなり衰退しないよう、「ぎんがポッチャ大会」の開催等、地域を巻き込み定着できるとよい。

・ポッチャ甲子園に参加している先輩の姿が、下級生にとって活動に取り組む意欲を高めたりきっかけになったりしている。

・パラスポーツやってみよう週間では、学校中で共通した話題ができるので、意識付けとして有効である。

・定期的、継続的に実施するには活動を支えていただく人を集めなければならない。

③アドバイス等

・最終的に地域で定着を図るのであれば、地域の団体に協力してもらうのが良い。相模原市やポッチャ協会、民生委等、機関はたくさんある。

・けやき体育館でも、障がい者スポーツを指導している。ポッチャの体験会を行ってこないかという要望もある。地域の人材を支えることも行っている。一緒にできることは是非やっていきたい。

・県央福祉会で行事を行うにあたり、近隣の高校にボランティアを呼び掛けたところ、90名のボランティアのうち、20名の高校生が集まった。若い世代のつながりで、どんどん人が集まる。ボランティアを行うと、学生にもメリットがあるのではないか。

・ボランティアを募る際は、募集内容を明らかにすることが大切である。

・第2回ぎんがポッチャ大会のチラシがあれば、広報活動に協力したい。

・今回いただいた意見を参考に、今年度の取組の中間報告をさせていただく。

・今後、具体的な内容などお話しさせていただきたい。また、アイデアを頂戴したい。

5 地域交流部会

(1) これまでの取組と、これからの取組について

- ・当初は図書室を使用したカフェを予定していたが、コロナ禍の影響を受けて思うように進まなかった。教職員向けのコーヒー提供を行っている。
- ・コロナ禍前と比べて、作るパンの個数は減ったまま。現在、効率を上げるために頑張っている。
- ・作業の清掃班は共和小学校の窓掃除を行うなど活動を戻しつつある。
- ・パン販売の予定をホームページに掲載している。電話でパン販売についての問い合わせをいただくこともあり、来校し購入してくださる地域の方もいる。

(2) 意見交換

- ・カフェを終了として、次は何を目標とするのか見えにくい。
- ・銀河まつりに参加するのであれば、前の年から準備しないと間に合わない。パンの販売となるのかなりの数が必要。スタッフの熱中症対策も必要。簡単な環境ではない。入口部分のスペースを多めに確保した。ふるさとフェスタ、銀河まつりを同時開催としたので規模が大きい。参加にあたっての準備を今からスタートするのであれば、来年としたほうがよい。
- ・銀河まつり、2日間をどうするか。前は実行員会も一緒にやって、保護者のボランティア参加もあった。
- ・清掃班については、以前は公園のベンチの清掃、博物館の清掃もやっていた。
- ・学校としてどうしたいのかを具体的に考える必要がある。お金の出し方や、不足しているところを一緒に考えていくが、どのくらい時間、どのくらいの量、目指すものは何かを学校として出していけないと。
- ・パンを作ることによって子どもたちが自分を越える経験をしたり自分が期待されていることがわかって頑張ったりすることが大事。
- ・中学部の作業としてコーヒーを入れる流れが進められているが、今後のカフェサービスとしてどう地域に繋いでいくまでは見えていない。
- ・基本、学校から出ていくことは大事だが、地域の人に学校に来てもらう方が早い。不審者対策など難しい所もあると思うが。
- ・この時間に来るとパンがあって、イスがあって、コーヒーがあって。まずは、学校に来てくださいでよい。販売だけでなく、図書室の本を開放することもできるのでは。
- ・祭りでブースを作っても30分で売れ切れでは話にならない。まずは、祭りに顔を出してもらって、様子を見てもらうからでよいのではないかと。子どもたちと祭りをみて、どのくらい売れるかなど一緒に考えてほしい。
- ・祭りよりも、まず学校に来てもらう方がよい。この学校はきれいで、明るいし、入りやすい。
- ・今年はパン販売やコーヒーサービスの場所を提供していければよいと思う。
- ・パンは量を作らないと美味しくならない。背伸びして作らないと成長しない。今年はしっかり作ってもらいたい。厳しくしてください。
- ・パンを軸にカフェを進めたほうがよい。1か月に何回販売するか。以前はもっと回数が多かったと思う。地域の人がパンを買いに来て、また次に来るようになると思う。
- ・できることを着実に進めたい。今回の内容を持ち帰り検討していく。

6 閉会